

8005 「ようこそ、お会いするのは久しぶりですわね」

「ようこそ、お会いするのは久しぶりですわね」

といわれて私はうろたえた。

目の前でにこやかにほほえんでいる小ぶりの女性が誰であるか、見当がつかなかったのである。どこかで見たような気がするけれども名前を思い出せない。私の当惑を察してか、その女性は「あたくし〇〇です」と名のった。

野呂邦暢『再会』（ミセス2月号）

[許容訳例]

"I'm glad to see you" a voice said. "We haven't met for a long time."

I was flustered. I did not recognized the plumpish woman who was smiling radiantly at me. I fancied I had met her somewhere before, but I couldn't remember her name. She may have read the perplexity in my face, for she identified herself, saying who she was.

[翻訳例]

"How nice to see you," the voice said. "It's been a long time since we met."

I had a moment's panic: a plumpish woman stood there beaming at me, but I had no idea who she was. I had a feeling that I'd met her somewhere, but I couldn't remember her name. Perhaps seeing my embarrassment, she identified herself. "I am--," she said.

■ 「ようこそ、お会いするのは久しぶりですわね」 (8005)

★ 「ようこそ」 ですが、どういう状況、たとえば、パーティーとかなにかの会で出会ったのか判りませんが、女性の発言なので How nice to see you. が一番いいでしょう。I'm glad to see you. も考えられますが、これは、たとえば、病人が出たときに来てくれたお医者さんに対して、あなたが来てくれてよかった、というように、何か理由があって来てもらってよかったという感じで使うのが多い表現です。It's nice that you could come. を短くした Nice you could come. も状況によっては可能ですが、ここではちょっと無理でしょう。

◆ 「完了形の用法」

★ 「お会いするのは久しぶりですわね」 はいろいろ言い方があります。たとえば、  
We met after a long time.

We met again after a long separation.

We met for the first time in a long time.

It is a long time since I saw you last.

など。しかし、日本文で「・・・わね」となっている点と、最後のところで「わたくし」ではなく「あたくし」となっている点を考えると、何らかの関係と感情が込められているように思われます。したがって、感情表現の一種である完了形を使って、

We haven't met for a long time.

It's been a long time since we met.

I haven't seen you for a long time.

などがいいと思われます。なお、You are quite a stranger.は「最近このあたりにはあまりお見えになりませんね」という感じで、ここでは使えません。Long time no see は、仲間うちで使うセリフです。

■ (「・・・」)といわれて私はうろたえた。(8005)

★I was said, "..."という英語はないので、「・・・と言われた」は The voice said と処理するのが一番自然です。なお、前が直接話法なので I was told は避けるべきです。tell は「何かを伝える；述べる；教える；語る」という意味ですから、「言う」とは違います。たとえば、He told me that he could not come the next day.といえば、これは「知らせてくれた」です。し、He told me about his father's illness.といえば、「お父さんが病気だということを知らせてくれた」ということと、「お父さんの病気のことを詳しく説明してくれた」という二つの意味になります。tell はこういう風に使うのが一番自然です。時には"I can't come tomorrow," he told me.のように、直接話法の伝達動詞として、途中とか後に置くことがあります。これも「言った」ではなく、「はっきり知らせてくれた」という意味です。原則として tell は直接話法の伝達動詞には使わない方が無難です。

★「私はうろたえた」ですが「うろたえる」というような感情語は、英語では状況によってそれぞれ異なる言葉を当てるので、非常にやっかいです。ここでは be embarrassed が使えると思いますが、この表現には、場合によっては「きまりが悪い」とか「ちょっと恥ずかしい」という感じが含まれます。be confused は「あわてて、または恥ずかしくてろくに言葉もでない」という感じです。これをさらに強めたのが be thrown into confusion です。どうしてよいかわからないという感じで女性の場合によく使われます。また、非常にまずいことを聞かれてしまってどう返事してよいかわからない場合にも使います。それから be upset は感情的に動揺した場合に使います。悲しい場合とか憤慨した場合とか、どうしてこんな冷たいことを言うんだろうと内心想うようなときとか、I was very upset.と言います。それから、be flustered は、あわてて、自分の気持ちや言おうとしていることの整理が出来なくて、人が見てもわかるくらい混乱している状態をいいます。「今日は風邪で休みます」と言って休んだのに、翌日「新宿で歩いているところを見かけたよ」と言われたときのような場合、I was flustered.です。強さから言うと be confused; be thrown into confusion に近いです。lose one's head もありますが、これはすぐ後に何らかの動作を伴って使われます。たとえば、He lost his head and ran away. ((まずいことを聞かれて) うろたえて、つい逃げた) のように。

さて、ここ「私はうろたえた」は、ほんの一瞬どうしていいかわからない気持ちになったと考えられるので、I had a moment's panic.にするといいと思います。(have) a moment's...は一種の定型表現で、たとえば、I felt a moment's anger.のように利用することができます。

◆コロン(:)の使い方

「私はうろたえた」と次の「目の前でにこやかに・・・」との関係は、後ろの文が前の「うろたえた」の理由になっているので I had a moment's panic:…とコロン（:）で続けると連結辞を使わないで情報をつなぐことができます。

■目の前でにこやかにほほえんでいる小ぶりの女性が誰であるか、見当がつかなかったのである。（8005）

● [で]（目の前で）

「目の前で」は、場所を表す副詞句ととらえることもできますが、「で」は曲者で、「動詞（ある・いる）＋て」の代わりに使われる場合が多々あります。たとえば、「彼の部屋は六階 [で]、そこから富士山が見えます。」の場合、[で] は「六階に [あつて]、・・・」ですから、英語に変換する際には動詞を補って His room, which is [being] on the sixth floor, has [can command] a view of Mt. Fuji.とか、His room is on the sixth floor, from which you [one] can see Mt. Fuji.にしなければなりません。ここもそれと同様で、「目の前に（立って）[いて]」ということです。なお、「目の前で」を辞書で見ると in one's presence というのがありますが、これは、たとえば、He did it in my presence.（ぼくの前で彼はやった）のように「自分がいる」ということを強調したいときに使います。

★「にこやかにほほえむ」は「相手に好意をもっている」感じなので beam（にこやかに笑う）がぴったりです。smile radiantly は「ぱっと輝くように笑う」で beam に劣ります。

★「小ぶりの」は plump では可愛そうなので plumpish にします。辞書には buxom が出ていますが、これは「太っている」というより「肉がついていて、いかにも健康そうなの」という感じです。健康な田舎娘が眼に浮かびます。

●隠れ連体修飾節＋連体修飾節＋不定代名詞的体言（目の前でにこやかにほほえんでいる小ぶりの女性）

「目の前で」を「目の前に立っている」とすると、「目の前でにこやかにほほえんでいる小ぶりの女性」は「隠れ連体修飾節（目の前に立って）＋連体修飾節（にこやかにほほえんでいる）＋不定代名詞的体言（小ぶりの女性）」ということになります。したがって、英語では「名詞(a woman)＋関係代名詞節(who stood there and was smiling…)」で処理するか、あるいは、二つの連体修飾節の関係が「・・・して・・・している」ですから「本動詞(a woman stood there)＋句(smiling…)」で処理することもできます。

★「誰であるか、見当がつかなかった」は I had no idea who she was が一番自然な表現です。なお、recognize を使うなら I didn't recognize…です。recognize は意識的に努力するものではなく、瞬間的に決まるものなので I couldn't recognize…とは言いません。それから辞書には I didn't imagine who the man was.という例が出ていますが、これは「そんなあきれたことをするのはいったいどんな人なんだろう」という含みがある場合が多いので、ここでは適当ではありません。

■どこかで見たような気がするけれども名前を思い出せない。（8005）

★「どこかで見た」は日本語として不安定です。「自然に眼に入った＝見かけた」なら(happen

to) see でしょうし、「会った」なら meet でしょう。女性のほうが「お会いしたのは・・・」と言っているので I had met her somewhere としておきます。

★「・・・ような気がする」は辞書には have a fancy that...がありますが、これは fancy that... と have a feeling that...を混同した言い方です。ここでは正しく have a feeling that...を使っておきます。

★「名前を思い出せない」は I couldn't remember her name です。

■私の当惑を察してか、その女性は「あたくし〇〇です」と名のった。(8005)

★「当惑」は embarrassment とか perplexity などです。

★「察する」は read も使えますが文語的です。sense がいいでしょう。「察する」を辞書で見ると、judge; gather; realize; see; understand などが出ています。Perhaps she judged that I was embarrassed なら可能ですが、She may have gathered that...は「わかった」ですし、She may have seen that...は「見て取った」という感じで具体性が強いように感じられます。ここでは、当惑が顔に出ていたとは限らず、何かそういう気配を感じてという状況なので sense が一番いいと思います。

●「察してか、・・・は・・・した」は難しそうですが、二つの処理パターンを覚えておくと、どんな場合でも簡単に処理できると思います。一つは Possibly[Perhaps] ...ing, she...と、もう一つは Possibly[Perhaps] ...did something, for...です。この for...は「なぜそういう風に思われたのかというと・・・であるからだ」という意味です。ですから、ここでは、Perhaps she sensed my embarrassment, for...か、She may have sensed my embarrassment, for...とすればいいことになります。

★「その女性は「あたくし〇〇です」と名のった」は She identified herself.でしょう。まあ She introduced herself でもいいですが、こういう言い方にすると、前にも招待されたかもしれないという感じが含まれてしまいます。

★「〇〇です」という使い方は英語にはないので "I'm--," she said. とするしかありません。